

令和6年度 学校関係者評価実施報告書（まとめ用）

学校番号	18	学 校 名	静岡県立西部特別支援学校	記 載 者	鈴木 ゆかり
------	----	-------	--------------	-------	--------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	自己 評価	関係者 評 価	意見
(1)	ア 事後も含めた緊急時の対応力向上	・避難生活も含めた系統的な防災学習を実施している。	A	A	
		・災害時や緊急時に自ら考えて児童生徒の安全を守れる状態になっている。			・D評価が4.4%あることに対する学校としての認識を明確にする必要がある。
		・保護者・職員の防災意識が高まっている。			
	イ. すべての児童生徒が体調を整え、気持ちよく生活できるための取組の充実	・学校体制における人工呼吸器管理について理解し、安全に実施できている。	B	B	
		・個々の児童生徒に適した食と環境の提供及び摂食指導をしている。			
		・性教育全体計画を活用して性教育を行っている。			・達成方法が計画の活用と見直しとなっている。D評価が8.1%あることを受け、計画そのものを見直した上で、活用方法や指導内容も検討していくとよい。
	ウ. 多様性を認め合い高い人権意識をもった児童生徒と教員	・児童生徒の人権意識が高まるような指導ができている。	A	A	
		・教職員の人権意識が高まっている。			

様式第 5 号

(2)	ア 教育課程の組織的な検討と仕組みづくり	・目指す児童生徒像に迫る教育課程について考えている。	A	A	・教育課程について考えるだけでなく、しっかりと理解できるような取組を行ってけるとよい。
	イ 「主体的・対話的で深い学び」をめざした授業づくり	・中心課題や各教科、双方の視点に基づいた授業づくりを行っている。	A	A	・A評価でよいが、成果と課題の説明に専門的な言葉が多く委員には伝わりにくい。各学部の具体的な取組と合わせて伝えてもらえるとよい。
		・授業づくりでは、個別最適な学びと協働的な学びが検討されている。			
	ウ 教員の専門性向上	・児童生徒や授業に関する話し合いの時間を設定し、日常的な OJL を実施している。	A	A	・学校見学时に、どの教員も一生懸命に指導している様子が伺えた。
		・肢体不自由教育の専門性が向上している。			
	エ キャリア教育の充実	・複数の視点で中心課題を設定し、指導場面を明確にして自立活動の指導を行っている。	A	A	
		・キャリア教育を意識し、社会生活を送る上で必要とされる力を身に付けるような指導をしている。			・学びの履歴としてキャリアパスポートを毎年更新し、きちんと積み重ねていけるとよい。
(3)	オ ICTの活用の充実	・個別最適な学びと協働的な学びのために、ICT を効果的に活用している。	A	A	・キャリアパスポートを、データベース化する方法もある。 ・遠隔合同授業実施に向けた具体的な方法を考え、次年度に取り組めるとよい。
	ア 保護者や地域、関係機関との連携強化と情報発信	・保護者が学校からの情報発信に概ね満足している。	A	A	

様式第 5 号

		・ ホームページ、SNS、作品展等を活用して、地域への情報発信に取り組んでいる。			
		・ 支援会議やケース会議をタイムリーに開き、組織的効果的な支援を行っている。			
		・ 互いの理解が深まる交流・学習を行っている。			
	イ 地域に根付いた学校づくり	・ 地域資源を活用した学習を行っている。	A	A	・ 地域ボランティアについて、ポッチャ教室の会長を務めているので、ぜひ協力したい。 ・ 近隣にある大学や高校等の資源を活用できるとよい。
	ウ 創立 60 周年記念事業を通して、感謝と夢を語る指導の実践	・ 児童生徒が 60 周年の歩みへの感謝の気持ちと夢を語ることができる取組をしている。	A	A	
(4)	ア 共に支え合い、働きがいのある職場づくり	・ 職場が発言や相談をしやすい雰囲気である。	B	B	・ 業務もある中で忙しいと思うが、共に支え合える職場であるために何かできるとよい。この評価が上がっていかないと、教育目標の達成にもつながらない。
	イ 学校運営課題の解決に向けた組織的な取組	・ 拡大運営委員会で得た情報を学校運営に生かしている。	A	A	
	ウ 指導の充実に向けた業務の整理・精選	・ 授業準備や授業に関する話し合いの時間が確保できている。	A	A	
		・ 時間外等在校時間が月 45 時間以内になるようにタイムマネジメントをしている。			